

はじめに

「むし歯は治らない」から始めよう！

こう書くと歯科医師をはじめとして、いろいろなところから批判を受ける。「バカなことをいうのではない。それでは我々が修復したインレーやクラウンでは治っていないというのか？」、「エナメル質表面に生じたう蝕は唾液の力で元に戻るではないか」などである。挙句の果ては「お前は形成も印象も下手で、修復物がうまく適合していないから、すぐにだめになるのだ」といわれてしまう。

エナメル質表面は唾液中に含まれるリン酸イオンやカルシウムイオンで再石灰化されることは確かだし、悔しいけれど私が臨床の名人でないことも確かである。それでもう蝕が象牙質まで達していたらもう治らないと断言してもよい。少なくとも血液の存在しない象牙質では、上皮性治癒は望むべくもない。

従来の修復物が永久に持つものではなく、すべてに限りあることは多くの臨床報告からも明らかである。そう、やはり象牙質まで達した「むし歯は治らない」のである。だからこそ、むし歯にさせないことが重要だし、修復物を入れた後も定期的に健診を行うことが大切なのである。予防管理型歯科医療が求められている所以である。「むし歯は治らない」ことを患者も歯科医師も理解したら、歯科医療は飛躍的に進歩すると信じている。まずは「むし歯は治らない」を念頭に始めてみようではないか。

予防管理が必要なことが十分理解されているにもかかわらず、それでも多くの人たちがすでに象牙質にまで達したう蝕で悩んでおり、二次う蝕の予備軍である修復物を口腔内に抱えていることも確かである。そういう人たちに対して私たち歯科医師はどのように対処したらよいのであろうか？

本書では、上皮性治癒をも期待される人工エナメル質の概念を中心に、保存修復治療のノウハウを解説した。術式は可能な限り単純化し、誰もが明日からの臨床で人工エナメル質の恩恵を受けることを目的とした。人工エナメル質の生成によって「むし歯は治らない」から、「むし歯は限りなく治るに近い」程度には変えていこうではないか。

NPO 法人 あなたの健康 21

「歯と口の健康を守ろう会」 安田 登